

平成二十五年度 推薦入試試験問題 (文学科 日本語日本文学専攻) 解答例

日本語日本文学専攻の小論文は、問一では文章を的確に読み取り要約する力を問い、問二ではそれをもとに多様な考えを論述する表現力を問うものである。よって、問二においては解答例に代えて出題の意図を示す。

問一 (二〇点)

【解答のポイント】

- ・第二言語習得研究の内容 (「外国語学習」そのものを対象とした学問分野、第二言語学習に関する疑問を科学的に解明することを目指した学問分野、より実証的、科学的、効果的な第二言語学習法を考えていくことなど) を明記していること。
- ・文章表現のきまりに基本的に則していること。

【解答例】

外国語学習を効率よく行いたいという社会的要請を背景に、「外国語学習」そのものを対象とした学問分野である。また、第二言語学習に関する疑問を科学的に解明することを目指した学問分野である。第二言語習得は複雑なので、第二言語の習得・使用という認知活動を学際的に研究することも含まれる。さらに、経験至上主義にとどまらず、より実証的、科学的、効果的な第二言語学習法を考えていくこともその役割の一つである。(一九六字)

問二 (八〇点)

【出題の意図】

第二言語習得が母語の習得とどう異なるのか、また効率的な第二言語習得に必要な学習法とはどういうものなのかを読み取り、受験生がこれまで経験してきた外国語の学習をふまえて、自分の考えを論理的に表現する力を問いたい。第二言語習得について考えることは、日本語日本文学専攻の「日本語教育(外国人のための日本語教育)」「関連の科目を学ぶのに必要な視点でもある。

【解答のポイント】

- ・筆者が述べている第二言語習得の内容を踏まえ、それに対して自分の意見がはっきりと述べられていること。
- ・これまでの経験が具体的にあげられ、自分の意見と論理的に結びついていること。
- ・段落わけなど文章の構成がきちんとしていること。
- ・文章表現のきまりに基本的に則していること。